

## 我が家のジェンダー平等

白河市立東北中学校 2年 平久江 真菜

「パパはいいよねー。」

私の母の口ぐせだ。私の母は、フルタイムで働き、残業も多く、夜の八時・九時に帰ってくることも少なくない。帰ってくるとすぐ様エプロンをつけ、夕飯の支度を始める。食べ終わると、台所の片付けをする。父や私はその間、スマホを見たり、テレビを見たり、お風呂に入っている。このような日々が続くと、母は決まって、

「どうして女の人が台所に立たないといけないの？」

とつぶやく。

私は母の一日を振り返ってみた。家族の誰よりも早く起きて朝食を作り、私を見送ってから仕事に行く。帰ってくると、休む暇もなく家事をして、家族の誰よりも遅く寝る。一方、父の一日は、できあがった朝食を食べ、仕事に行き、ほぼ残業もなく定時で帰ってくる。母の帰りを待ち、できあがった夕飯を食べ、お風呂に入り、寝る。母と父の一日をこうして比較してみると、母の負担が大きく感じられる。

どうして女の人が台所に立つのか私も考えた。小学校の行事で、お母さんたちは豚汁を作り、お父さんたちはもちつきをしていた。家に人が集まると、女の方は台所に立ち、男の方はお酒を飲んでいる。当たり前のように女性が料理をしている。「男性は外で働き、女性は家を守る」ことから女性が台所に立っているのだろう。おいしいお料理に、大人も子どもも喜びが増すだろう。

実を言うと、私も家には母がいつもいてほしいと思っていた。学校や塾の送り迎え、帰ればおいしいご飯が出来上がっていて、それが毎日食べられる。サザエさんやちびまる子ちゃんのような家庭が私の理想なのだ。

しかし、今私が生きている令和の時代は、女性が活躍する場も増え、男性と肩を並べて働いている。男性も家事をするのが当たり前になってきている。得意、不得意はあるかもしれないが、家事を意識する男性は増えてきているだろう。母の口ぐせを何度も聞いている父もその一人だ。父なりに料理に挑戦しているものの向いていないようだ。しかし、リビングの掃除機がけと洗濯は毎日やっている。仕事から帰ってきた母は、部屋がきれいになっていることや洗濯

物が干されていることに気が付くと、

「パパありがとう。」

と、きちんと父に感謝の言葉を伝えている。父は母の仕事の大変さを理解し、家事を補い、母が働くことを尊重している。母は、働ける環境を作ってくれている父に感謝をしている。

我が家のジェンダー平等は相手を思う気持ちから生まれる優しさと、協力し助け合う思いやりの精神で成り立っている。

女性の社会進出に、男性が生きにくい世の中であると思われるが、昔、女性も同じようなことを思っていたのだとしたら、ジェンダー平等への取り組みは今後の社会に良い影響をもたらすだろう。

私も将来、お互いの仕事を理解し、尊重し合えるパートナーと出会い、母のように思い切り働きたい。